

家庭・地域・社会教育

近年、人口減少、少子高齢化やグローバル化の進展などにより、社会経済の構造が大きく変化し、人々のライフスタイルや価値観が多様化している。また、世代間交流や地域関係が希薄となっている一方で、団塊の世代の退職により、多くの市民が地域に回帰し、地域の結びつきや絆を大切にしたいという意識も高まってきている。

平成25年度は、こうした社会状況を踏まえ、家庭、学校園、地域の結びつきを重視し、個々のニーズやライフステージに応じた学習・活動機会の提供や地域活動の活性化や市民の生きがいつくり、体力向上、健康増進、青少年の健全育成などに資する様々な事業を着実に推進していく。

1 自発的な学習を支援する社会教育環境の整備

現在、社会環境が変化する中で、個々のニーズに応じた多様で魅力ある学習・活動機会の充実が求められている。市民一人一人が自発的な意思にもとづいて学習や活動に取り組むことで、生きがいを見だし、心の豊かさを培い、自己実現を図ることができる。

また、こうした学習や活動により養われた知識や技術、経験をさまざまな形で地域活動などに活かすことによって、人と人との絆が生まれ、家庭や地域、社会でのコミュニケーションの向上につながっていく。市民の誰もが気軽に自発的で主体的な学習や活動ができるように学習・活動の環境の整備・充実に取り組んでいく。具体的には、学習資源情報の発信として、伊丹市ポータルサイト「いたみん」を活用した関連情報の提供や各種ボランティアの養成講座、スキルアップ講座等の充実を図る。また、社会教育施設においては、あらゆる世代に親しまれ、利用される施設として、文化・芸術施設や大学、地域などとの総合連携による効率的、効果的な事業を展開していく。

公民館では、市民の参画と協働を目的に設置された公民館事業推進委員会と連携し、社会の要請に応じた多様で魅力的な学習機会を提供するとともに、幅広い年代層を対象とした事業を実施する。また、市民が主体的に学習や活動を行える環境づくりや、公民館グループの充実を図るとともに、その学習成果を活かした事業を実施するなど、学習・活動で得た知識や技能などを地域社会に還元できる仕組みづくりに引き続き取り組む。

図書館では、昨年7月に移転開館した本館「ことば蔵」を中心にことばと読書を大切にする教育の一翼を担う取り組みを進めるとともに、ことば蔵においては、レファレンスサービスの充実や快適な読書・学習環境の提供、適切な蔵書構成など図書館機能を強化する。さらに本やことばを通じて人と人が語り合い、学べる「交流事業」や、伊丹の歴史、文化情報の発信を積極的に行い、これからの図書館のあり方を示唆できるような取組を行っていく。また、市内図書館ネットワークを活かし、「伊丹市子ども読書活動推進計画」を進め、市民の読書活動の推進を図る。

博物館では、地域と連携した調査・研究事業を一層進め、その成果を展覧会事業で公開するほか、「新伊丹市史」編纂に向けて行ってきた歴史資料の整理を行い、今年度は『伊丹市立博物館史料集』や『地域研究いたみ』第43号を刊行する。また、市民の要望に応えた出前講座の開催、郷土学習を支援するレファレンスなどの充実に取り組むとともに老朽化した収蔵庫書消火施設を改修し、収蔵資料の適切な管理を行う。

生涯学習センター・北部学習センターでは指定管理者制度のメリットを活かしながら、地域の生涯学習拠点としての事業を展開していく。また、図書館分館事業については、本館との連携を強化し、市民の読書活動の推進に取り組む。

2 文化財の保存・継承と活用

市内の文化財愛護関係団体と協働して、文化財の保護・継承事業を推進する。

「歴史・文化が醸し出す伊丹ロマン事業」は本年7年目を迎えます。この事業を通してさらに文化財愛護の啓発、歴史認識を深めるため、オープニングイベントや展示、講演会などを実施する。また平成26年NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にちなみ、黒田官兵衛と有岡城・荒木村重の関わりを紹介するイベントを開催する。

伊丹市文化財愛護少年団（伊丹文化財愛護少年団・御願塚文化財愛護少年団・南野文化財愛護少年団）等の文化財保護関係団体の活動支援や、史跡等の適切な管理、保存、整備についても継続して取り組むほか、白鳳時代創建の寺院である国指定史跡「伊丹廃寺跡」の公有化事業も進めていく。

3 生涯スポーツの推進

生涯スポーツの推進は、市民の体力向上と健康増進をめざすとともに、スポーツを通じた地域間交流や世代間交流を図り“明るくいきいきした地域づくり”を目的とするものである。「新伊丹市生涯スポーツ振興基本計画」の柱である「だれもが・いつでも・どこでもスポーツとふれあえる環境づくり」、「健康の維持増進を図る体力づくり」、「競技レベルの向上」、「地域の特色を活かしたスポーツ振興」に沿った事業を継続して行う。

環境づくりでは、スポーツクラブ21等の地域スポーツ活動支援など、だれもがスポーツに触れることができる事業を実施するとともに、公益財団法人伊丹スポーツセンター、指定管理者等と連携を図り施設の運営を行っていく。施設の老朽化に伴う修繕を実施し、市民が安全に利用できるよう施設の整備・充実を図る。

また、伊丹の特色を活かしたスポーツ事業として、伊丹生まれの「いたっボール」やゆかりのある競技「なぎなた」を普及し、本市の特色を全国にアピールしていく。

4 家庭・学校園・地域等の協働による教育の推進

心豊かな青少年を育成するには、家庭・学校園・地域等がしっかりとつながり、協働して取り組むことが大切である。家庭の教育力の向上はもとより、地域ぐるみで家庭教育を

支援する体制を整備し、地域全体の教育力の向上をめざす。また、青少年の健全育成に向け、少年愛護センターをはじめ、市民、関係機関・団体等との連携のもと、夜間特別補導など街頭補導の強化や「愛の一声運動」による非行防止、被害防止を進め、「地域の子どもは地域で守り育てる愛護運動」を推進する。あわせて青少年の育成について市民の関心と意識を高めるための広報・啓発活動の充実や、「白ポスト運動」による有害図書類の回収など、青少年を取り巻く環境の浄化を図る。

P T Aと地域が協働するP T C A活動は、子どもの学力向上策として家庭・地域での学習環境整備、あいさつ運動や安全パトロールの実施、さらに地域行事への参加促進を通じ、家庭、学校園、地域の連携を強化していく。

5 今日の課題に対応した家庭・地域・社会教育の推進

社会環境の変化に伴う世代間交流や地域関係の希薄など今日の課題に対応していくためには、単に個人的な趣味、教養を充足させるだけではなく、各自が生涯にわたって学んだ力を地域課題の解決に活用し、まちづくりに活かされることが必要である。

そのために、人と人、人と地域を結ぶコーディネート機能を強化し、社会教育施設の持つノウハウや知識、技能の修得ができる環境の整備を進めていく。さらに、家庭・学校園・地域の連携による教育活動推進事業として、学校の教育活動を地域ボランティアで支援する「学校支援地域本部事業」については、学校図書、環境、学習支援などの活動内容の周知、充実を図るとともに、地域を基盤とした学校支援体制の整備を推進する。

6 家庭・地域・社会教育における人権教育の推進

すべての人の人権が尊重される「多様性を認め合う共生社会」の実現をめざして、人権に関する学びを生涯学習に位置づけ、それぞれのライフステージに応じた多様な学習活動を家庭・地域・社会教育などのあらゆる場において推進する。その際、人権を知識として学ぶだけでなく、日常生活においても自他を尊重する意識が、態度や行動となって現れるようになることが大切である。そのため、「伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針」（平成22年度策定）や「伊丹市人権教育基本方針」（平成22年度改訂）に基づき、「基本方針」の年次報告書である「伊丹市人権教育・啓発白書」を活用するなど、あらゆる人権課題に関する学習機会の充実を図る。

家庭では、保護者と子どもがともに参加し学びあうことができるような人権啓発講座の開催や視聴覚教材の貸出しなどを行い、家庭の教育力向上を図る。

また、地域では、市民が日常生活の学習活動や地域活動を通じて、さまざまな人権問題などについて理解を深め実践する場であるとの認識のもと、ライフステージに応じた学習機会を充実する。さらに、職場等では、一人ひとりが啓発者であるという認識に立ち、人権問題に対する正しい理解と認識を高めるよう支援する。